

**内閣総理大臣杯争奪  
第42回日本車椅子バスケットボール選手権大会  
個人トータル表**

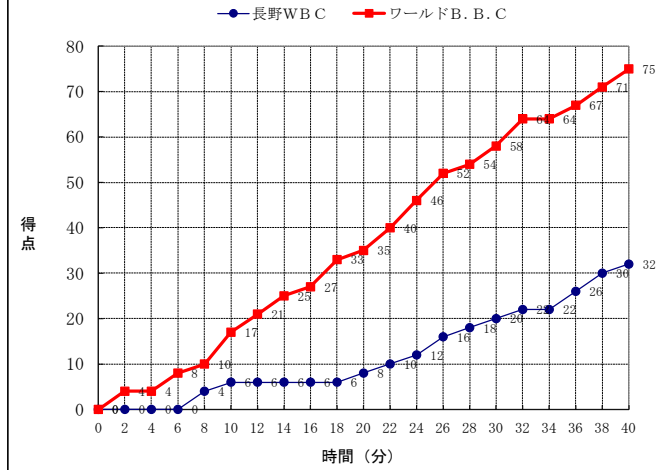
				2014年5月17日 14時20分開始							
<b>1回戦</b>				東京体育館				C - 3			

<b>長野WBC</b> (甲信越)	<b>32</b>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr><td>6</td><td>1クォーター</td><td>17</td></tr> <tr><td>2</td><td>2クォーター</td><td>18</td></tr> <tr><td>12</td><td>3クォーター</td><td>23</td></tr> <tr><td>12</td><td>4クォーター</td><td>17</td></tr> </table>	6	1クォーター	17	2	2クォーター	18	12	3クォーター	23	12	4クォーター	17	<b>75</b>	◎ <b>ワールドB. B. C</b> (東海北陸)
6	1クォーター	17														
2	2クォーター	18														
12	3クォーター	23														
12	4クォーター	17														

番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則	番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則
5	柴田 悠 (1)	-	-	-	-	-	-	-	* 5	加藤 和徳 (3)	16	0	7	2	-	-	0
* 6	熊谷 悟 (3.5)	4	0	2	0	-	-	2	6	神谷 泰範 (2)	0	0	0	0	-	-	1
8	太田 文武 (1.5)	2	0	1	0	-	-	1	7	竹内 厚志 (3)	10	0	5	0	-	-	0
* 9	丸山 弘毅 (2)	4	0	2	0	-	-	3	* 9	竹中 久雄 (2)	11	1	4	0	-	-	1
* 10	高原 健二 (2.5)	18	0	9	0	-	-	2	* 10	加藤 直生 (1.5)	2	0	1	0	-	-	1
11	中村 慶佑 (4.5)	-	-	-	-	-	-	-	11	早稻田 正浩 (2)	2	0	1	0	-	-	0
* 12	寺尾 剛 (2)	4	0	2	0	-	-	2	* 12	富永 文明 (3.5)	26	0	12	2	-	-	1
* 14	奥原 明男 (1.5)	0	0	0	0	-	-	1	14	杉浦 寿信 (1)	-	-	-	-	-	-	-
15	宮沢 武利 (2.5)	-	-	-	-	-	-	-	* 15	大島 朋彦 (4)	8	0	4	0	-	-	0
									16	辰巳 晃一 (3.5)	-	-	-	-	-	-	-
									19	児玉 真也 (2)	0	0	0	0	-	-	0
HC	奥原 明男								HC	杉浦 寿信							
AC	東 英恵								AC	小川 智樹							
マネージャー	川上 梓								マネージャー	寺島 悦子							
マネージャー	太田 伸江								マネージャー	小崎 祐美子							
									マネージャー	前田 麻美							
									トレーナー	斉藤 伸明							
合 計		32	0	16	0	0	0	11	合 計		75	1	34	4	0	0	4

主審： 岸 良太郎  
副審： 吉安 ゆみ  
副審： 堤 宏二

得点経過



[ 戦 評 ]

第1・長野10番ワールド15番のタップで始まりワールド先行。  
両チームシュートチャンスはあるもののなかなか決まらず開始2分OFリバウンドからのワールド5番シュートで先制。  
DF・OF共にリバウンドが強いワールドがインサイドでシュートを決め優勢にゲームを進めるワールドの強いボールプレッシャーで長野は簡単にシュートが打てずに得点が入らずタイムアウトを取るがそれでも長野はなかなか点入らないが少しずつ隙の出来たDFからワールド6番8番がシュートを決める。  
第2・ワールド12番シュートでスタートし12番がコントロールゲームを作る。  
長野はインサイドを果敢に攻めるがワールドの激しいDFや高さにシュートが決まらずリバウンドを確実に取りワールドがファーストブレイクで得点を重ね点差を広げる。長野は9番のリバウンドからのシュートで応戦するが8対3でワールドリード。  
第3・ワールド9番の3Pシュートでゲームがスタートし12番15番のシュートで得点を重ねる。長野も12番6番の得点で応戦するが、ワールドは激しいDFから12番のカットインプレイ後のファーストブレイクで点数を重ね流れを作る。  
長野は12番がコントロールし6番9番がインサイドへ果敢に攻めるがなかなか得点が取れない中、9番がブザービーターを決めるが、20対58で変わらずワールドリード。  
第4・ワールド5番のシュートでゲームがスタートし長野も10番のシュートで応戦するが激しいDFから確実にリバウンドを取りOFに繋げるワールドは5番12番が確実にシュートを決め流れを渡さない。長野は10番が4Q連続得点を取る活躍を見せるも安定したDFとOFを見せたワールドが32対75で勝利。

(担当：三村／増渕／大森)